

テーマ 学童保育における「遊び家具」の取り組み

清水肇（京都支部、琉球大学）

1. 取り組みの経緯

2008年～ 学童保育施設の継続調査に着手

那覇市、浦添市の全学童保育の施設を図化して記録)。各地で過ごし方調査を継続。
特に大部屋・一室での落ち着かない過ごし方に問題意識。

一方、民家学童に残る多様な場所の魅力に注目。

2017年 中城村ごさまる学童クラブで最初の「遊び家具」「一畳ロフト」を製作・設置

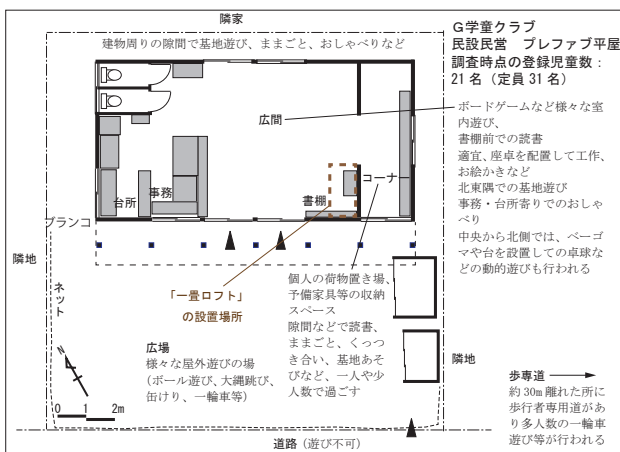
2018年 浦添市港川学童クラブで二段ベッドと「多目的フレーム」を製作・設置

2020,21年 北中城村しまぶく学童クラブで様々な「遊び家具」を製作、設置

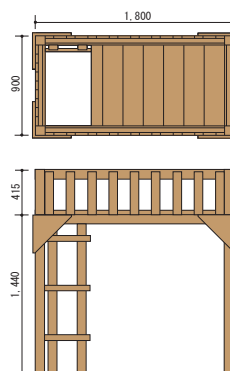
2023年 同しまぶく第二学童クラブで段ボールの「遊び家具」「カベダイチ」を製作
ここで改めて、一連の取り組みを「遊び家具」と称することにした。

2. ごさまる学童クラブでの「一畳ロフト」の取り組み

広間で、動く遊びと静かな過ごし方が混在する学童保育に、小さな落ち着ける場所を。



G学童クラブの施設概要と場所ごとの主な使われ方



一畳ロフト

「一畳ロフト」に登る子ども、登らない子どもの違いは？ 過ごし方をとらえる方法を考えた。

人との交わり方の三類型

一人行為 : 一人での行為

定型遊び : 複数での遊び方に定まった型やルールがある

不定型行為 : 複数での遊び方、過ごし方にルールがないか、ゆるやか

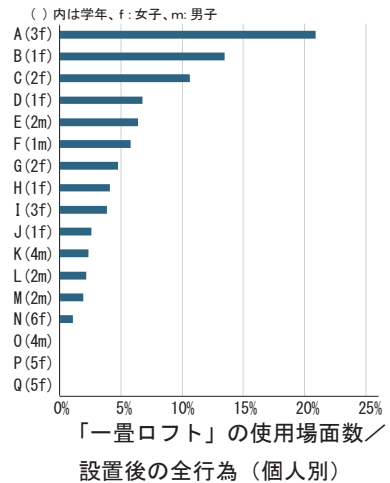
場所利用の三類型

空間利用 : 動き回れる空間の余地を利用

拠点利用 : 落ち着いて留まれる場所を利用

環境利用 : 面白い場所の条件を利用したり、面白い場所をつくる

	空間利用	拠点利用	環境利用
一人	ウロウロする 一人遊び(動):一人スポーツ、一輪車、竹馬、等	休息:ゴロゴロ・寝る 読書、眺める 一人遊び(座):一人道具遊び、等。	虫の観察、木登り、水を流す、地面に線を引く等 基地づくり
定型	道具遊び(動):コマ回し等 広場遊び(動):ボールを使う スポーツ、広場の鬼ごっこやルールのある集団遊び、ビー玉遊び等	道具遊び(座):カードゲーム、ボードゲーム等	追跡遊び・場所の特徴を活かした鬼ごっこ・かくれんぼ等
不定型	並行的遊び(動):一輪車、剣玉等 不定型遊び(動):おいかっこ、ダンス、ロープ遊び、ブランコ等 ふれあい行為(動):ワイワイ騒ぐ、じゃれ合う等	並行的遊び(座):ブロック遊び、工作、折紙等 不定型遊び(座):人形遊び、一緒に読書等 ふれあい行為(座):おしゃべり、くつつく等	基地づくり 水たまり遊び、廃材工作、泥団子づくり、石遊び、動物と遊ぶ等
学習			
必要行為(荷物の整理、指導員の手伝い、怪我の手当等)			
集団活動(集まり、おやつ、プログラムされた活動等)			

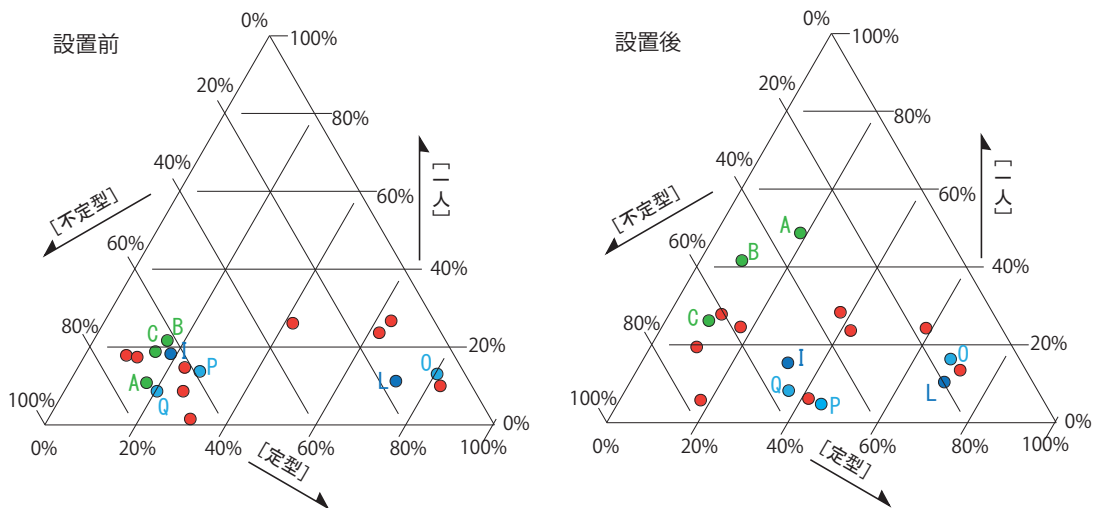


※定型遊びでの過ごし方が安定している子ども、

不定型行為で一緒に過ごす仲間が安定している子ども(関係が安定しているから、ルールのない遊び方をその場で決めていける)は「一畳ロフト」にあまり上がらない。

①定型遊びが少なく、不定型遊びに入ったり外れたりする子ども

②少人数の不定型遊び(拠点利用)が特に多い子どもが「一畳ロフト」にたくさん上がる。



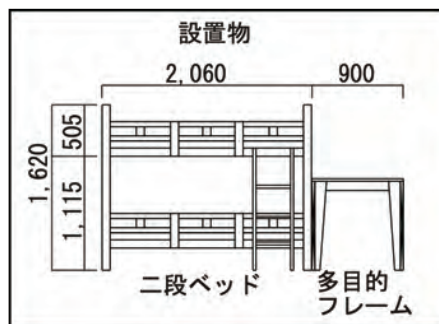
2. 港川学童クラブでの二段ベッドと「多目的フレーム」の取り組み

小学校敷地内の新築施設の大部屋。

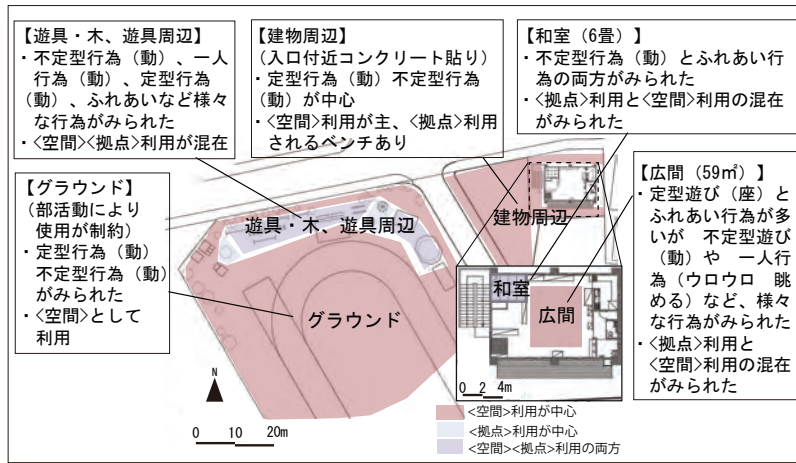
拠点利用と空間利用というとらえ方で課題が明確に。

大部屋の中が空間利用の場所となり、校庭の遊具が拠点利用の場所となっていた。

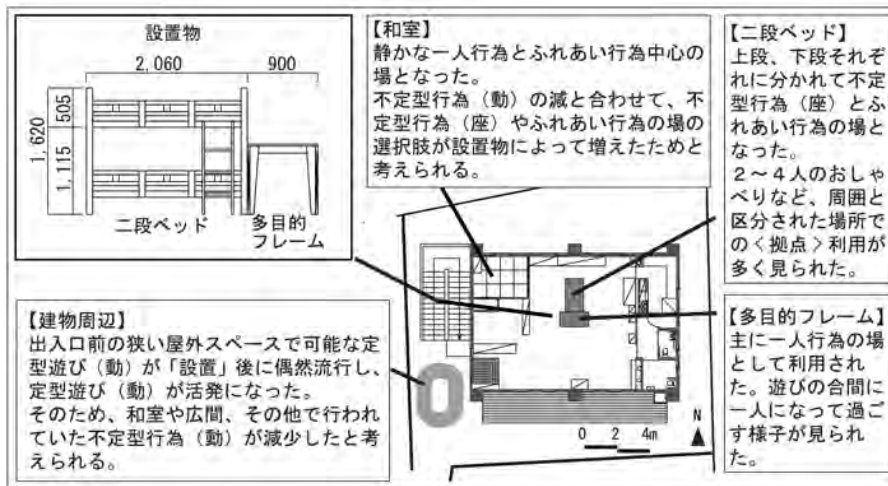
大部屋の中に高さの違う小さな拠点をつくり、複数の拠点がある状態をつくることのできた。



「二段ベッド+多目的フレーム」



M学童の敷地内の場所の使われ方（「設置」前）

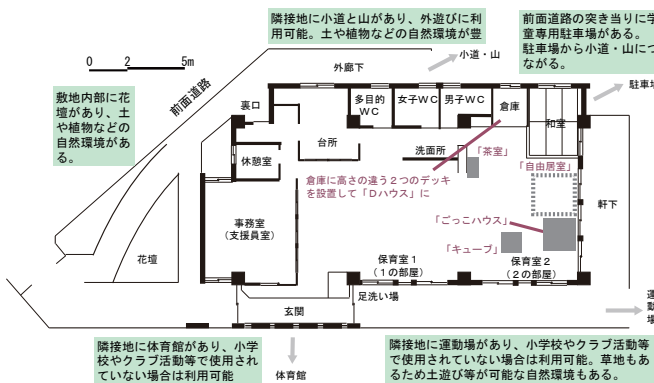


M学童の屋内の場所の使われ方（「設置」後）

3. しまぶく学童クラブ、しまぶく第二学童クラブでの取り組み

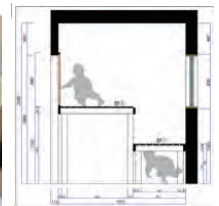
2020～23年度

しまぶく学童クラブ、「遊び家具」を年間の関係・集団の過ごし方形成の中で取り入れる。



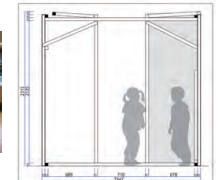
D(ドラえもん) ハウス

倉庫に2段の床を設置して広間と立体的な距離を取れる場所をつくった。少人数集団が落ち着いてこもる場所になった。



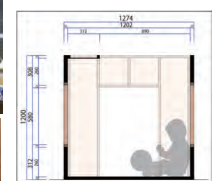
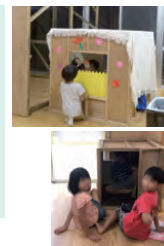
自由居室

アイデアによって多様な過ごし方ができるフレームとして作成。

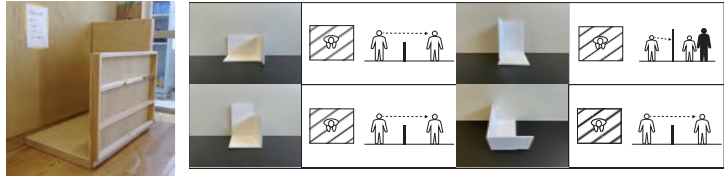


ごっこハウス (大) と キューブ (小)

ごっこ遊びなどの多様な遊びが展開する場所であるとともに、少人数や一人で静かに過ごせる場所として作成。

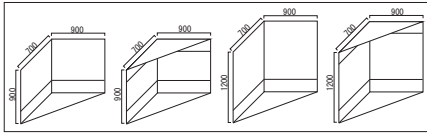


茶室 少人数や一人で過ごせる場所であり、置き方により様々な広さや他者との視線関係を生み出す。



カバダイチ

段ボール製で3つか4つの壁を持つユニットを4種類の寸法で作成。動かせる遊び道具であるとともに、配置や組み合わせによって、一人や少人数で落ち着ける場所をつくれる。



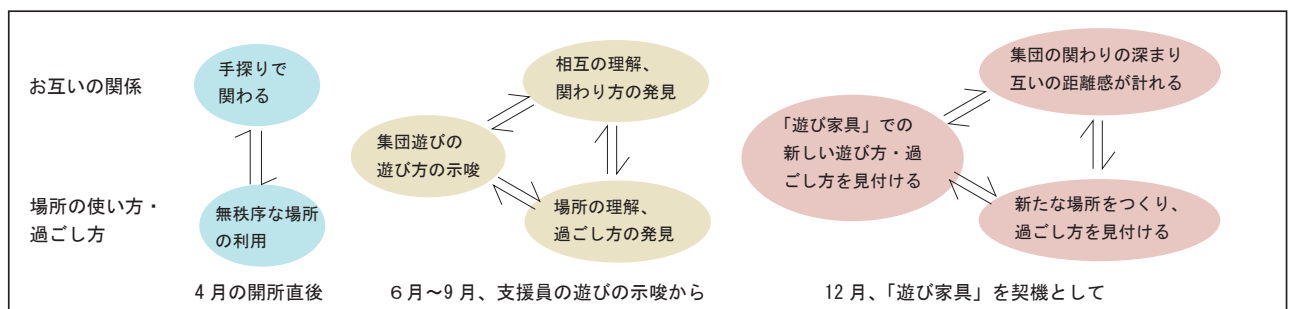
	第1次配置(4月)	第2次配置(6月)	第3次配置(8月)	第4次配置(12月)
支援の関わり方と変化	触れ合うことで確かめ合う名前のある遊びで落ち着く 支援員の対応：子どもたちの擦れあいを観察	集団遊びで関係を広げる場所の使い方が共有される 支援員の対応：群れさせて集団遊びを主導	集団の自律ができ認め合う集団を眺める子どもがいる 支援員の対応：集団遊びを遊びを支える	場を選択して仲間と過ごす個々で過ごし方が確立した 支援員の対応：子どもの遊びの要求に応える
子どもの過ごし方の変化	和室 一人で読書、少人数で話す、じゃれあうなどが多く、行為の混在が見られた。	不定型行為(動)が減り、主に1人で静かな行為をする拠点となった。		
	コーナー1 1~3人で利用され、落ち着いた行為が多かった。利用者数は少ない。	宿題で使われることが多くなった。		
	コーナー2 1~3人で利用され、落ち着いた行為が多かった。利用者数は少ない。	少人数、5~7人の落ち着いた行為が多く利用されていた。	集団で落ち着いた行為が多かった。一人行為が少なかった。	一人行為(座)や不定型行為(座)、ゆるやかなルールの遊び(座)が増えた。
	倉庫 1人や少人数、5~7人の静かな行為が多く、和室より動的な行為が少ない。		不定型行為(座)と不定型行為(動・環境)が混在していた。	主に一人行為(座)で利用され、少人数での不定型行為(座)もあった。
広間2	1人や少人数、5~7人の静かな行為が多く、和室より動的な行為が少ない。	5人以上の集団で、主に定型遊び(動)に使われるようになった。	定型遊びは減り、自由居間で1人または5~7人での静かな行為が見られた。	
運動場		一人行為(動・座)や不定型行為(環境)が見られ、定型遊びは無かった。	主に5~10人で、定型遊び(動)が多かった。	体育館が使えたこともあり、5人以上の集団で、定型遊び(動)がさらに増えた。
施設改善活動による場所の変化	<ul style="list-style-type: none"> コーナー2は配置変更し領域を明確にした。 広間2は間仕切り側へ広くとり、動線と離して配置した。 コーナー1へコーナー・壁に接した机を設置した。 目的：空間を改善し、拠点を落ち着かせる。	<ul style="list-style-type: none"> コーナー2へテーブルと工作棚を設置し、工作部屋にする。 広間2の東側へ自由居室を設置する。 倉庫にDハウス(柵無し)を設置する。 目的：行為や人との距離を多様にする。	<ul style="list-style-type: none"> コーナー2へ壁に接した机を配置する。 コーナー2へごっこハウスを設置する。 倉庫のDハウスに柵を設置した。 目的：静かな過ごし方を多様にする。	

図 2020年のS学童での年間の子どもの過ごし方の変化と配置の工夫、「遊び家具」設置のねらい

4. まとめ

「遊び家具」は単調な学童保育施設に多様な場所をつくり、一人一人の過ごし方を大切にするための道具として発案した。

取り組みを重ねる中、支援員と子ども達が自分の生活の場所を自分でつくっていく営みが大切であり、そのプロセス自体の大切さに気付いた。



関係、過ごし方の変化の契機 (2023年度のD学童クラブ)